

薬味について



食欲の秋と言われる季節になりました。五つの味について考えます。

酸味・苦味・甘味・辛味・鹹味(かみ)を五味といいます。気が病むのには外因(まわりからの影響)、内因(自らの体の影響)、そのどちらでもないもの不内外因(これは飲食の乱れや生活の乱れで食事の過不足、過労、房事過度、出産)となります。

酸味(すいじ)のものは、気を収斂(しゅうれん)させます。酸っぱいものを食べると口の中が何ともいようになりますよね。

苦味(くみ)のものは熱をとります。気を引き締めます。とりすぎれば、体を冷やしてしまいます。

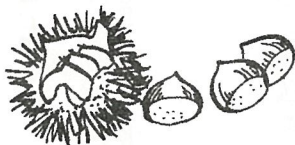
甘味(かんみ)のものは、疲れた時にほしくなりますよね。筋肉を和らげてくれます。とりすぎは、体をだるくさせます。

辛味(しんみ)のものは、血行をよくし温めてくれます。とりすぎれば、汗が出て冷えてしまいます。

鹹味(かみ)のものは、水を抜き潤し和らげます。鹹味は塩辛い味のことです。漬物をつけると野菜がしわしわになりますね。とりすぎれば、血を粘らせます。

以上五味ですが、バランスが大切です。体はその調和で成り立っているのです。

[文責 渡辺 浩二]



《行事予定》

	日時	担当者
★漢方講演会	10. 26 (月)	林 馨史朗
(毎第4月曜)	11. 30 (月)	浮亀 浩
	PM1:30-PM3:00	
	(会費 有料 会場 中日文化センター)	
★本草閣講演会	10. 15 (木)	浮亀 浩
(毎第3木曜)	11. 19 (木)	林 馨史朗
	PM2:00-PM4:00	
	(会費 ¥500 会場 本草閣葉饅ビル)	
★何でも花草会	11. 10 (火)	林 馨史朗
(毎第1火曜)	12. 1 (火)	"
	PM1:30-PM3:30	
	(会費 ¥500 会場 本草閣葉饅ビル)	
★753会(俳句・川柳素人の会)	10. 27 (火)	林 馨史朗
(毎第4火曜)	11. 24 (火)	"
	PM1:30-PM3:30	
	(会費 ¥500 会場 本草閣葉饅ビル)	
★ささやか文化祭	11. 21 (土)	恵比須講
	【御買い上げの際、節句に因んだ品物を 進呈いたします。】	



《編集後記》

先日の薬草観察会は好評のうちに終えることができました。ありがとうございました。次回は来年の春ごろ開催の予定です。ぜひいろいろな方に参加していただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

尚、12月のかわら版の発行は諸事情により20日ごろになる予定です。どうぞご了承ください。

[かわら版編集部 水野、近藤]

本草閣 かわら版

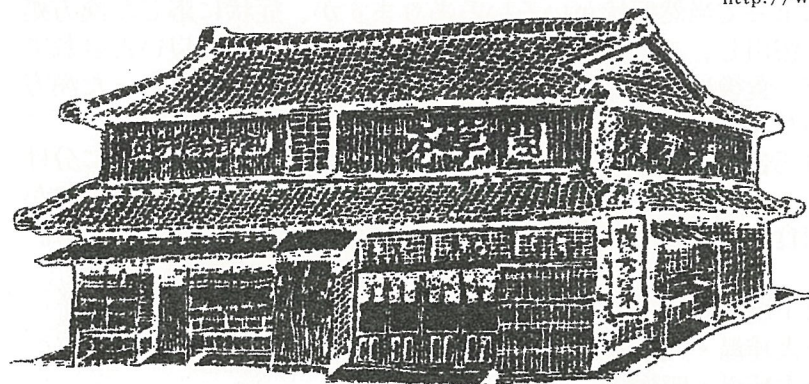
平成10年10月15日発行
(偶数月の15日発行)

〒460-0012
名古屋市中区千代田5-21-17

漢方の本草閣内
「本草閣かわら版」編集部
編集責任者 水野 英章
TEL 052-241-3388
FAX 052-251-3294

ホームページ
<http://www.ijinet.or.jp/HONSOUKAKU/>

第33号



漢方の本草閣 交歓会 開催のお知らせ

お身体の具合はいかがですか!
漢方の本草閣では、健康・食事・予防・漢方・生薬・民間薬等々の相談・販売等を創業以来、病まれる方々の身になって業を行ってきました。

2000年を迎えるにあたり改めて、病の予防・漢方の使い方・食事の指導・正しい薬の使い方等々について検討する時期に入ったと考える今日この頃です。つきましては、下記のごとく「交歓会」を開催し、皆様方からの御意見・御指導をたまわりたいと考えております。この趣旨に賛同していただける方、是非とも参加くださいますようお願い申し上げます。

尚、粗末なお土産と少々のお車代を用意させていただきます。参加の方が多い場合は勝手ながら抽選とさせていただきますので、どうか御了承ください。

記

日時	平成10年11月18日(水) 午後1時30分より3時30分まで
場所	名古屋・鶴舞 通信ビル(東海銀行西通りビル)の2F第1会議室 TEL:052-263-5221 P-TEL:030-156-1883(当日携帯電話)



申込み先

〒460-0012 名古屋市中区千代田5-21-17

漢方の本草閣 交歓会係 林様
TEL:052-241-3388

FAX:052-251-3294

*誠に勝手ながらハガキ・FAXにて申込み下さいます様にお願
いいたします。追って私どもから連絡させていただきます。

日本における癌の民間薬の現状について

今回、母校である名城大学薬学部にて平成10年10月26・27日に名古屋・南京薬学ソサエティが開催されるにあたり「日本における癌の民間薬の現状について」と題して発表する機会を得ましたので、ここに原稿の一部と私なりの解釈を加えさせていただきます。

我々漢方薬局に相談に来られる患者さんのうち最近特に目立つのは、癌の患者さんと精神科領域の患者さんです。両者とも大変難しい病ですが、主治医の了解のもと治療のひとつとして漢方薬を併用していただいております。

今回は、我々漢方薬局での癌に対する漢方処方及び民間薬の報告をいたします。残念ながら効果率・生存率等々のデータは把握しきれておりませんので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

癌の種類・程度・年齢等によって当然症状がいろいろありますが、症状に応じた漢方処方を基本的に食前又は食間に服用し、これ以外に先人等から教えられた癌に良いとされている生薬をお茶代わり（食前・食後に関係なく服用する）又は各個人の症状に合った漢方処方と一緒に煎じ服用していただく方法をとっております。

お茶代わりとしては一日4-5合程度、漢方処方として飲む場合は一日1合を三回に分けて食前・食間に服用します。ただ、癌にいいとされる生薬は全般的に苦みが強くなかなか飲みづらいために、一日3回食前・食間に薬という感覚で服用される方がほとんどです。

（漢方処方の例）

- 食欲のない場合—六君子湯・四君子湯 等
- 元気がない場合—十全大補湯・人参養栄湯 牛黄 等
- 術後・貧血の方—十全大補湯・四物湯 等
- 腹水・浮腫の方—補気建中湯・五苓散 等

（昔から癌にいいと伝えられ使用されている生薬・民間薬）

- ・赤目柏(Maloti cortex)
- ・カワラタケ(Cotriolus versicolor)
- ・熊笹(Sasa veitchii)
- ・桑寄生(Trapanatis)
- ・菱の実(Isodonis herba)
- ・藤瘤(Wistaria chinensis)
- ・延命草(Isodonis herba)
- ・はとむぎ(苡仁) (Coix lacryme)
- ・その他(梅寄生、冬虫夏草、敗醬根、白毛藤等その他多数)
- ・訶子(Terminalia chebule)
- ・仙鶴草(Agrimoniae herba)
- ・山豆根(Sophora subprosarata)
- ・浜千舎(Conandri herba)
- ・岩千舎(Tetragoniae herba)
- ・靈芝(Ganoderma lucidum)
- ・アガリクス茸(Agaricus blazei)
- ・半枝蓮(Scutellariae herba)

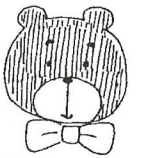
上記の中で藤瘤、訶子、菱の実、意苡仁、の頭文字をとったWTTCを主として茸類を加えた民間薬が良く用いられます。

薬は新薬（洋薬）・漢方薬にかかわらず勝手に服用せず、まず薬剤師に相談してください。

〔文責 林 馨史朗〕



薬草ウルトラクイズ



★テーマ：動物生薬 [出題者：本草製薬(株)・吉田 将士]
★問題：生薬の中には植物以外荷も動物の一部を用いるものがありますが、次のうち熊（ツキノワグマやヒグマ）の胆汁や胆のうを乾燥させたものの呼び名はどれでしょう。

- A. ユウタン
- B. ノンタン
- C. ワンタン

*A～Cより解答を選び、下記宛までご返送して下さい。又、FAXでも結構です。

☎460-0012 中区千代田5-21-17

漢方の本草閣 近藤宛 FAX 052-251-3294

*正解者の中から抽選で記念品をお贈りします。尚、解答と解説は次号に掲載させていただきます。

★前号の答え：C（石膏）

Cの石膏（せっこう）は漢方薬の原料として使われ、例えば気管支喘息などに用いる「麻杏甘石湯」や高血圧などに用いる「釣藤散」に処方されています。

★ご解答を多数お寄せいただき、ありがとうございました。日頃の感謝の意味を込めまして、今回は正解の方全員に本草閣露露（へちま化粧水）をお送りします。どうぞお受けとりください。

〔西春だより〕

西春店は、今年9/26で開店1周年を迎えることができました。微力ながら何とか無事1年やってこれたのもひとえに皆様の御蔭と深く感謝しております。振り返れば地域に密着した薬局をめざし試行錯誤を重ねながらやってまいりましたが、まだまだ自分のめざす薬局とは程遠くこの先今以上の頑張りとお力が必要と痛感しております。

開店当初は患者さんも少なく正直この先やっていけるだろうかという不安が常にありましたが、本店で私が担当させていただいた方が遠方にもかかわらず、お越しいただき励ましのお言葉を頂戴した時などは、どれだけ勇気づけられ、又大きな自信になったことか今でも感謝の気持ちで一杯です。こんな私でも頼りにしてくださる方がいるんだという事を心の支えにし、少しでも病に苦しんでいる方のお役に立てるよう日々努力する所存です。 [文責 早川 浩次]

☎481-0033

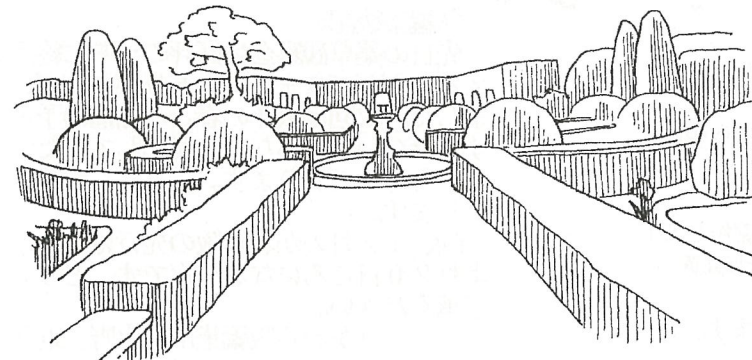
西春町大字西之保字青野東35

和漢・漢方の本草閣 西春店

管理薬剤師 早川 浩次

TEL 0568-24-6480 0568-24-6481

FAX 0568-25-6551 (定休日 毎週日曜日)



俳句紹介

僧の掃く 石畳には こぼれ花
 抑えられぬ 事がこだわり ねじり草
 一日過ぎ 終われぬ夏や 髪洗う
 いとしさが 益々つる 虫の声
 新涼や 畳に四股を 伸ばしけり

博子 譽子 淳子 政子 悦子